



1億人のネット宣言
もっとグッドネット

青少年が利用するコミュニティサイトに関する実態調査

～モバイル定量調査 調査結果報告書～
【サマリー版】
(実査時期:2010年 10月～11月)

2011年3月

安心ネットづくり促進協議会
コミュニティサイト検証作業部会

I. 調査実施概要

調査① モニター調査

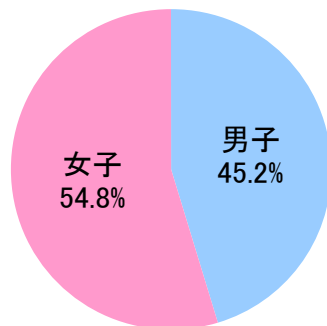
- 調査方法 : モバイルアンケート登録モニターに対し、モバイルWebアンケートを実施
- 調査対象 : 小学校3年生～高校3年生の携帯電話を使用している人
- 調査期間 : 2010/10/15(金) ～ 2010/10/21(木)
- 有効回収数 : 2,784サンプル
- 調査実施機関: 株式会社サーベイリサーチセンター

調査② コミュニティサイト調査

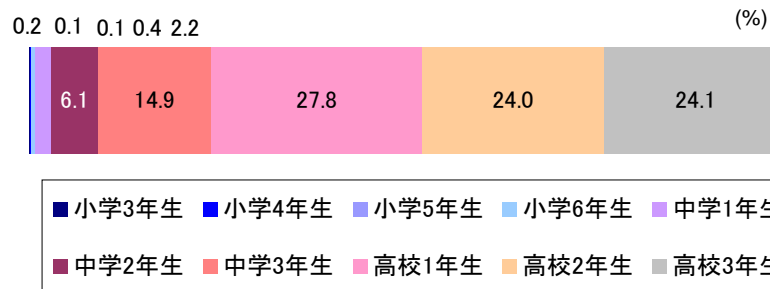
- 調査方法 : GREE・魔法のiらんど・モバゲータウン・mixiのサイト上にモバイルWebアンケートの回答画面へ接続するリンクをはり、来訪者に対しアンケートを実施
- 調査対象 : 小学校3年生～高校3年生の携帯電話を使用している人
- 調査期間 : 2010/10/26(火) ～ 2010/11/17(水)
※各SNSサイトの準備が出来次第、上記期間内にスタート。
各SNSサイトで設定された掲載期間が終了し次第、順次終了した。
- 有効回収数 : 4サイト計 2,007サンプル

Ⅱ. 回答者プロフィール

●性別 (n=4791) ※ 調査①・②の合計



●学年 (n=4791)



●居住地域 (n=4791)

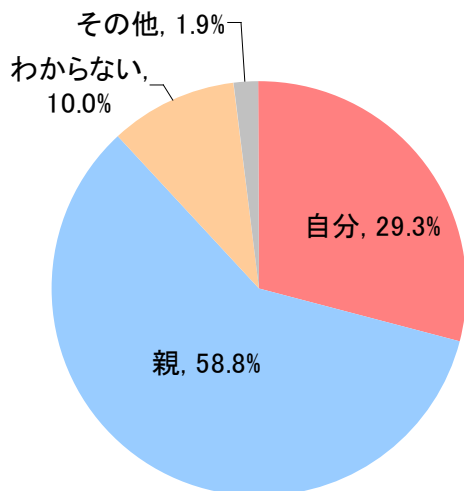
都道府県	人	都道府県	人
北海道	268	滋賀県	56
青森県	85	京都府	125
岩手県	63	大阪府	402
宮城県	88	兵庫県	178
秋田県	42	奈良県	45
山形県	44	和歌山県	35
福島県	82	鳥取県	25
茨城県	136	島根県	24
栃木県	72	岡山県	52
群馬県	63	広島県	59
埼玉県	319	山口県	33
千葉県	285	徳島県	26
東京都	461	香川県	24
神奈川県	375	愛媛県	37
新潟県	58	高知県	22
富山県	27	福岡県	146
石川県	40	佐賀県	17
福井県	27	長崎県	34
山梨県	42	熊本県	54
長野県	67	大分県	25
岐阜県	75	宮崎県	24
静岡県	103	鹿児島県	68
愛知県	255	沖縄県	129
三重県	74		

Ⅲ. Summary

●使用している携帯電話は、親名義の自分専用携帯電話が多い

【現在利用している携帯電話の名義(単一回答)】

(n=4791)

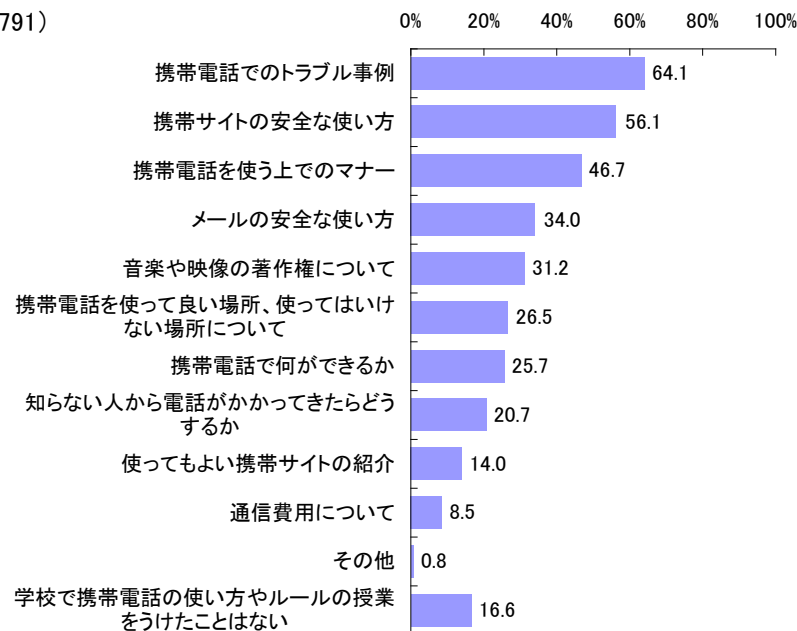


- ・小学校高学年の携帯電話のうち、6割が「自分専用」。
- ・中学生以上では「自分専用」の携帯電話が9割。
- ・小学校高学年の携帯電話のうち、8割が「親」名義。
- ・中学生・高校生でも6割が「親」名義の携帯電話。

●学校での携帯電話の使用方法についての授業は8割の人が受講

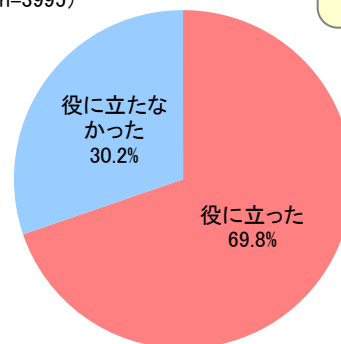
【携帯電話の使用方法についての授業内容(複数回答)】

(n=4791)



【授業内容は役に立ったか(単一回答)】

(n=3995)



- ・携帯電話の使用方法の授業は、小学生高学年で5割、中学生・高校生では8割以上が受講。

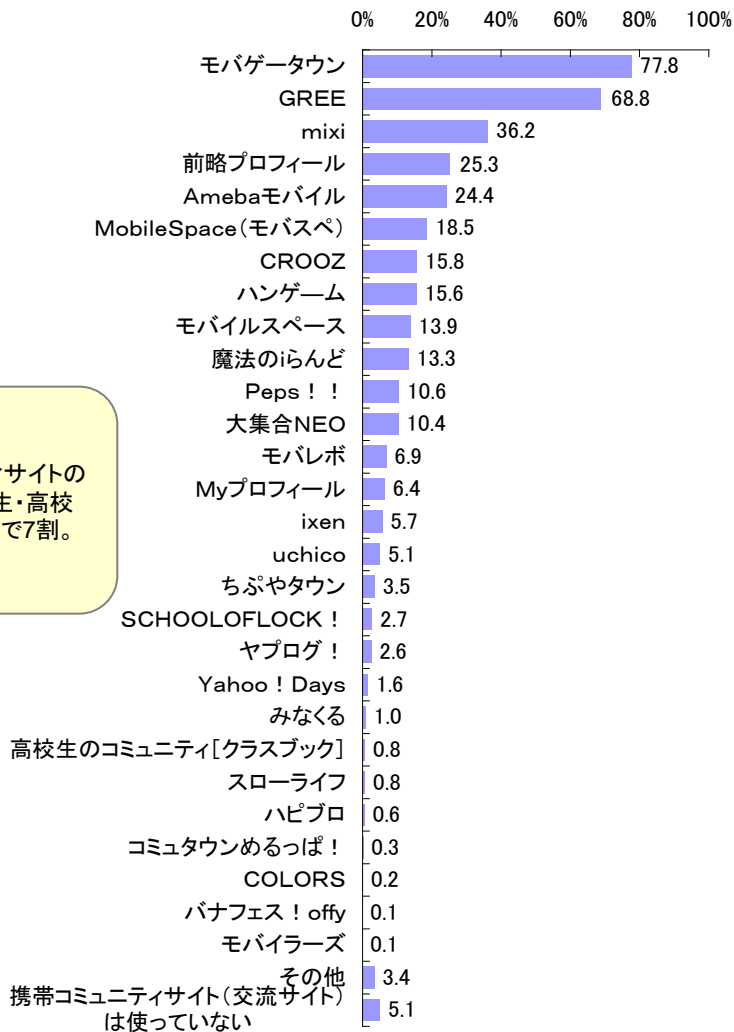
III. Summary

<調査① モニターアンケートベース>

- 中学生・高校生のお大半が携帯コミュニティサイトを利用
- 利用しているサイトは「モバゲータウン」

【利用している携帯コミュニティサイト(複数回答)】

(n=2784)

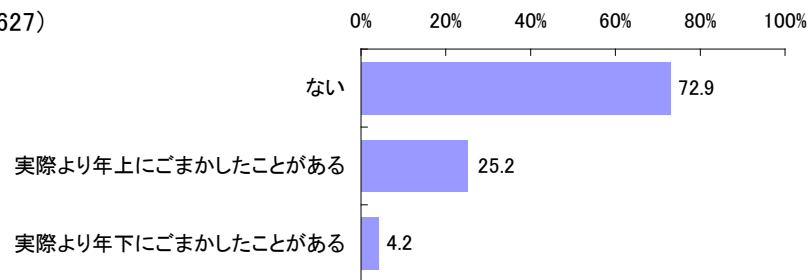


・携帯コミュニティサイトの利用率は、中学生・高校生で9割、小学生で7割。

- 携帯コミュニティサイト利用時の年齢詐称は3割が経験あり

【年齢詐称経験(複数回答)】

(n=4627)



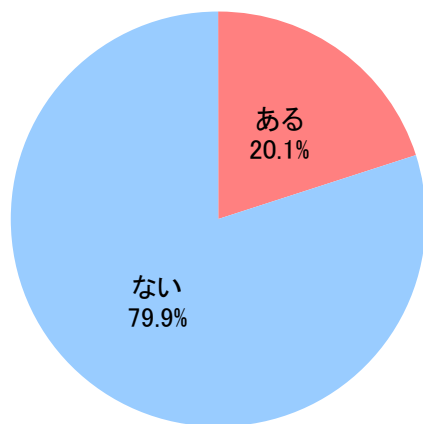
・年齢詐称は、中学生・高校生の3割が経験。
 ・年齢をごまかす理由は、「自由に利用したい」「年齢制限のあるサイトを使いたい」といった声が多い。

Ⅲ. Summary

● 携帯コミュニティサイトで知り合った人と会ったことがある人は2割

【携帯コミュニティサイトで知り合った人との対面経験(単一回答)】

(n=4627)

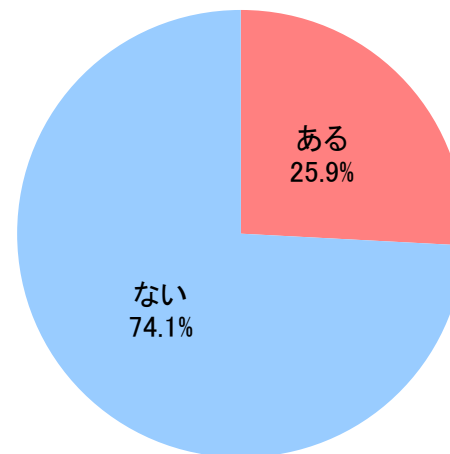


- ・実際に会ったことがある人のうち、複数回会った人は7割。
- ・高校生以下の子供同士で会っていることが多い。
- ・会う約束に利用したツールは「携帯メールで」が7割。
- ・会う約束をする際に、携帯番号やアドレスを書いている人は7割。
うち「そのまま普通に書いた」が3割、
「普通の人には分からないように書いた」が4割。
- ・実際に会った感想は、「とても楽しかった(また会いたい)」が8割。

● 隠語の使用経験がある人は3割 使用理由は「監視に引っかからないように」が最多

【隠語使用経験(単一回答)】

(n=928)



- ・隠語の使用経験は、女子より男子が多い。
- ・隠語の使用理由は、「監視に引っかからないように」が最も高く、次いで「一部の分かる人だけに分かってもらいたいから」。

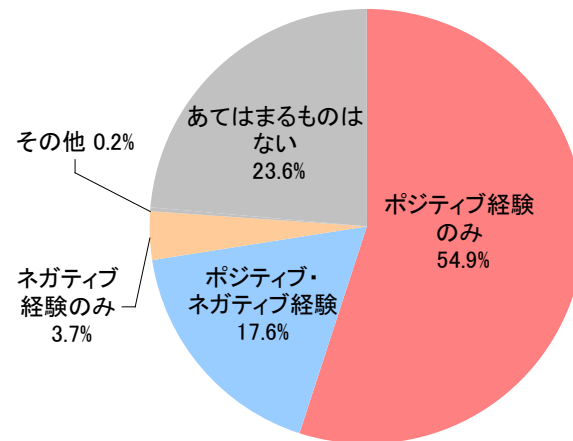
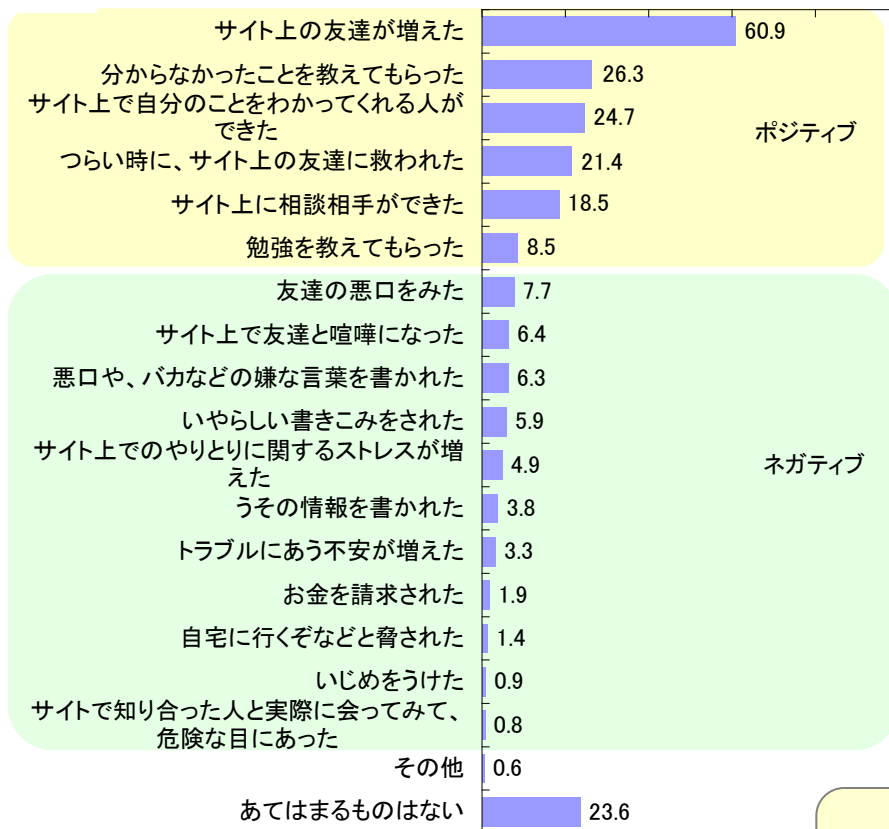
III. Summary

● 携帯コミュニティサイトでネガティブな経験をした人は2割で、内1割は未解決

【携帯コミュニティサイトで経験したこと(複数回答)】

(n=4627)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

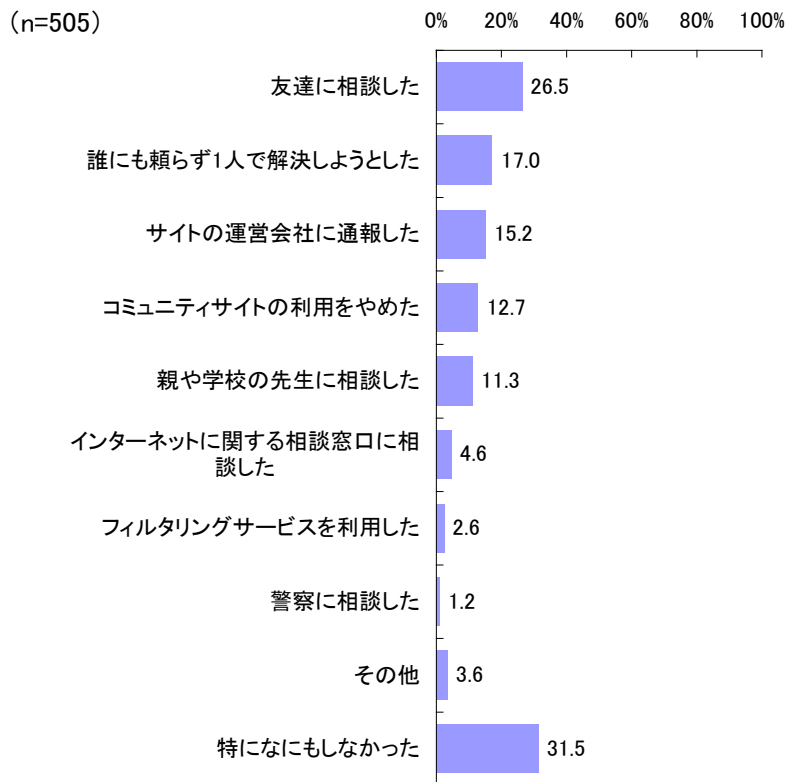


・全体的にポジティブな内容が多く経験されているが、2割の人がネガティブな経験もしている。

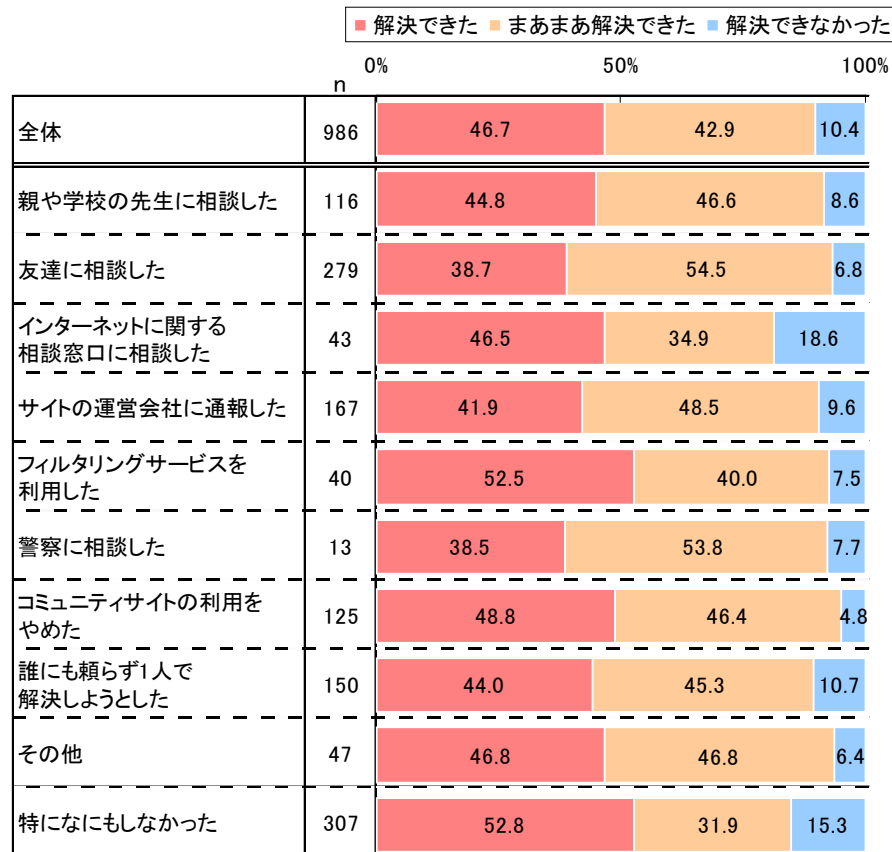
III. Summary

● 嫌な経験への対処法は「友達に相談した」「サイトの運営会社に通報した」が多い

【嫌なことへの対処法(複数回答)】



【嫌なことへの対処法(複数回答) × 解決度合い(単一回答)】



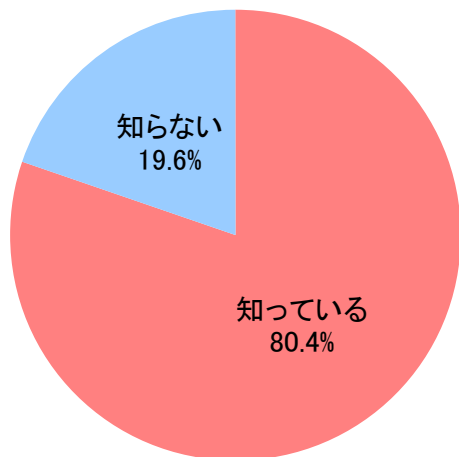
・男子より女子の方が「友達に相談した」が多い。
女子よりも男子の方が「誰にも頼らず1人で解決しようとした」が多い。

Ⅲ. Summary

● 携帯コミュニティサイトにおける機能制限は8割が認知

【機能制限の認知(単一回答)】

(n=4791)

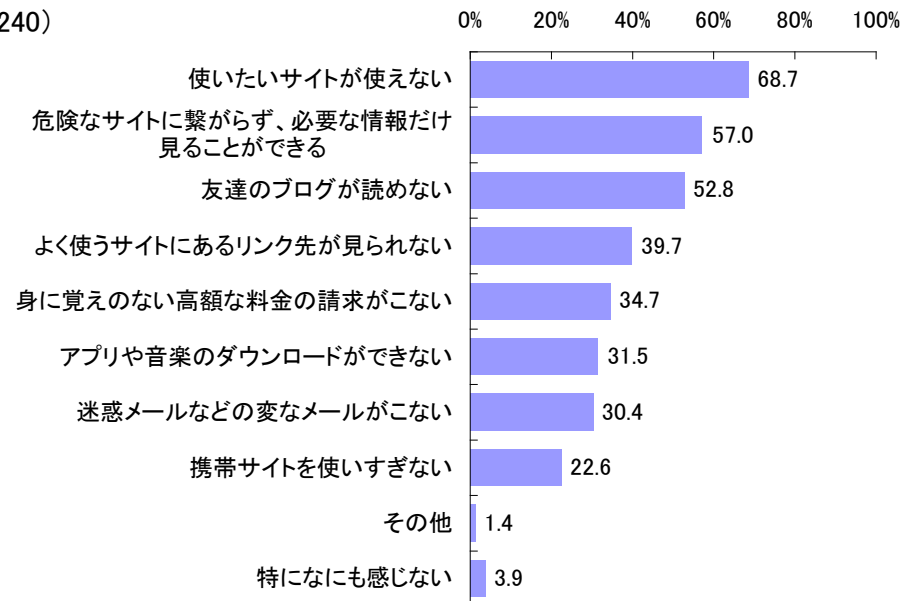


・機能制限は、「不便だが、仕方ないと思う」が4割、「安全に利用できるのよいと思う」が3割と、7割の人が容認。

● フィルタリング機能は「使いたいサイトが使えない」

【フィルタリング機能設定時の良い点・不便な点(複数回答)】

(n=2240)



・現在フィルタリング機能がかかっている人は3割、以前かかっていたが現在は解除している人が2割。

・フィルタリングの良い点、悪い点は、「使いたいサイトが使えない」が最も高く7割、「危険なサイトに繋がらず、必要な情報だけを見ることができる」という肯定意見も6割。

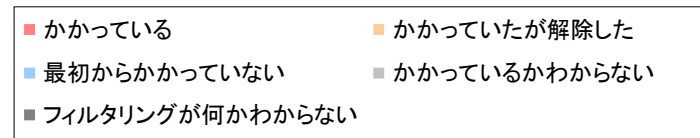
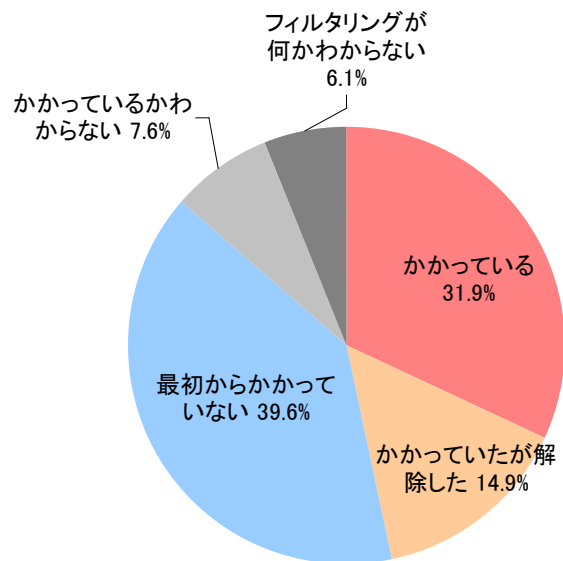
III. Summary

●携帯電話の名義によりフィルタリングの設定率に大きな差はない

【フィルタリングの設定状況(単一回答)】

【現在利用している携帯電話の名義(単一回答) × フィルタリングの設定状況(単一回答)】

(n=4791)



		n	0%	50%	100%		
	全体	4791	31.9	14.9	39.6	7.6	6.1
携帯電話の名義	自分	1406	32.9	17.9	39.1	5.5	4.6
	親	2817	31.0	14.5	40.9	7.8	5.8
	わからない	477	35.2	9.4	30.4	13.0	11.9
	その他	91	25.3	9.9	54.9	4.4	5.5

・現在フィルタリングがかかっている人は3割、かかっていない人は5割。

・携帯電話の名義が「自分」でも「親」でも、フィルタリングの設定率に大きな差がない。

青少年が利用するコミュニティサイトに関する実態調査（概要）

～デプスインタビュー調査 調査結果報告書(概要)～
(実査時期:2010年 11月13日～29日)

2011年3月

安心ネットづくり促進協議会
コミュニティサイト検証作業部会

青少年が利用するコミュニティサイトに関する実態調査（概要）及び考察

1. 調査目的

青少年のコミュニティサイトコンテンツの利用実態やそれを利用する際の危機管理実態、コミュニケーション経路を把握することによって、今後のコミュニティサイトの改善に資する基礎データを得ることを目的とする。

2. 調査対象

携帯電話を利用している小学校3年生～高校3年生に対して行ったモバイルアンケート回答者を主とした、以下の条件に当てはまる20名※

優先度1:コミュニティサイトで知り合った異性の大人と1対1で会ったことがある人

優先度2:コミュニティサイトで知り合った人(性別年代問わず)と会ったことがある人

優先度3:コミュニティサイトで知り合った人と会ったことはないが、会ってみたいと思っている人

優先度4:コミュニティサイトを使っている人

※コミュニティサイトで知り合った人と実際に会った経験をもつ人を優先的に抽出

3. 調査結果から得られた示唆

子どもたちは子どもたちなりの基準をもって、信頼できる相手か否かを探りながらコミュニケーションを行っていることが明らかとなった。今回インタビュー対象となった子どもたちは、実際会う前に、コミュニティサイト上の日記機能や「つぶやき」機能といった、タイムラインにおける偽装が容易には出来ない投稿をもとに、相手が信頼可能か否かを判断している傾向にあった。また、相手の信頼性を判断するにあたって、本人の写真を公開しているか否かも判断基準のひとつとされている場合が見受けられた。最終的には、先方とメッセージ機能や電子メールを利用して相手に会うに至る傾向にあるが、このような実際の出会いに至るには大まかな傾向としていくつかの段階に分けられる。

青少年が利用するコミュニティサイトに関する実態調査（概要）及び考察

(1) オフラインでの交流に至る経路と利用コンテンツの関係について

オフラインでの交流に至る経路は以下に示すとおりであり、交流の程度によって利用されるコンテンツに変化が見られる。各期間のコミュニケーションにおいて、相手が信頼できる人物かを継続的に観察し、実際に会って危険の無い人物であるか・実際に会うに値する人物であるか(会って楽しいか)を判断した上で、オフラインでの交流に至っている。

① 認知・関心期

共通の趣味など自分と合いそうな人を探す段階で利用されることの多いコミュニティ機能は、相手の存在を認知し、関心をもつ時期に大きな役割を果たす。

② 観察期

コミュニティなどで出会い、関心を持った相手と交流するにあたり、日記やつぶやきを見ることで、相手が本当に自分を同じ趣味を持っているか、普段どのような発言をする人なのかを確認する。

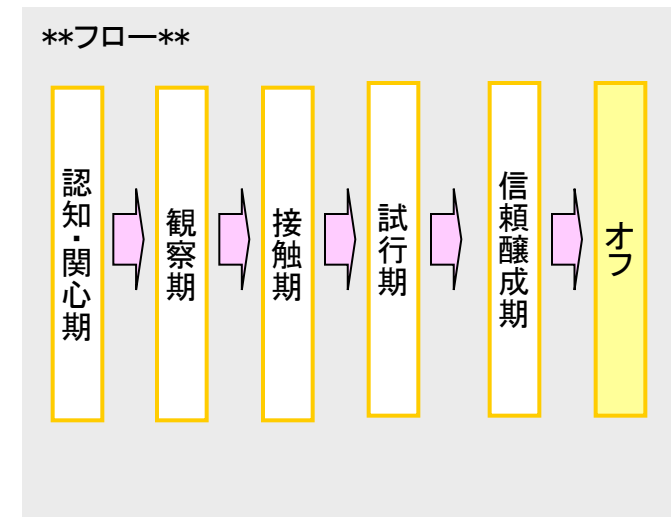
③ 接触期

信頼できると判断するとミニメールや伝言板でのやりとりへと発展し、オンライン上の1対1での交流となる。

④ 試行期

1対1での交流によって、オンライン上ではある程度信頼できる相手であると判断すると、リアルな友達と共有しているコミュニケーション手段(本アドレスや、個人情報公開している別のコミュニティサイトなど)への移行を行うか否か判断するため、コミュニティサイト外のコンテンツを利用した交流へと進む。

具体的には、捨てアドレス(元々使わなくなることを想定して使用する仮のアドレス)を利用したメールのやりとりや、フリクラの交換による互いの外見(性年代がコミュニティサイト上のプロフィールと一致するか等)の確認が行われる。



青少年が利用するコミュニティサイトに関する実態調査（概要）及び考察

⑤ 信頼醸成期

試行期のやりとりで更に交流を深めると、本アドレスによるメールや、チャットによるリアルタイムの交流へと移行し、実際にオフラインで会うべきかを検討する。

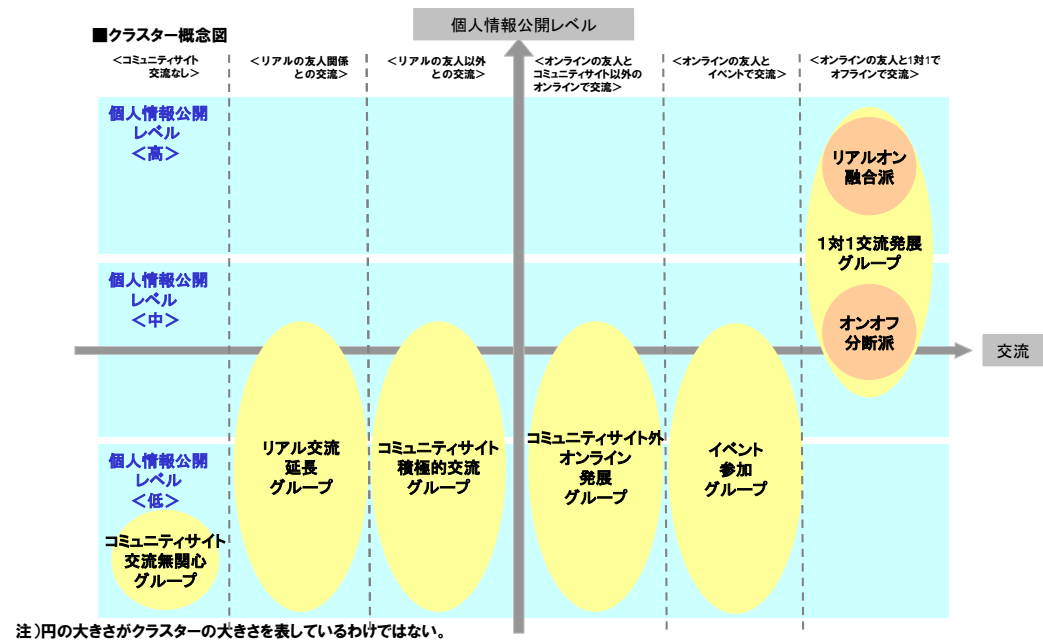
この時期においても、コミュニティサイト内のミニメールや掲示板での会話などは並行して行われる場合もある。

(2) 個人情報公開レベルと交流の程度について

コミュニティサイトにおける個人情報公開レベルがインタビュー対象者によってかなりの差が見られたこと及び、(1)のとおり、青少年はオフラインでの交流に至るまでに、相手を継続的に観察してその信頼性を測ることが明らかになったことから、コミュニティサイトにおける個人情報公開の程度を<低><中><高>と分類し、個人情報の公開程度と、コミュニティサイトをきっかけとする交流の程度に相関関係がないか分析した。

プロフィールに掲載している個人情報の公開レベルが高いほど、その人に関する情報量が増えるために関心を持ってもらいやすいという点はあると思われるが、その後どの段階まで交流が進むかは、個人情報の公開レベルと直接的には関係しないと考えられ、結果として、個人情報公開レベルと交流の程度に相関関係があるとは言えない。

コミュニケーションフローのどの期間においても、相手の信頼性判断の材料となっているのは、相手とのコミュニケーションの内容であり、元々公開しているプロフィールは、相手への関心をもつきっかけにすぎないことが伺える。



青少年が利用するコミュニティサイトに関する実態調査（概要）及び考察

(3) オフラインでの交流に繋がるもの

前述のとおり、個人情報公開レベルと交流の程度に相関関係は見られなかったものの、写真は信頼を得るための手段として活用されており、交換することでコミュニケーションの程度が進むようである。

また、最終的な連絡手段としては、ミニメール・電子メールのような1対1のコミュニケーションツールが用いられている

4. 考察

(1) 交流の程度と、実生活の充実感との関係性

子どもたちは実生活において充実感が不足している場合に、コミュニティサイトを通じて気の合う仲間を探す傾向があり、趣味や趣向が同じ仲間と1対1で会うことへの抵抗感は低くなりやすいと考えられる。コミュニティサイトをきっかけとする交流の程度と、実生活の充実感との関係性を重点的に検証することで、今後新たな示唆が得られる可能性がある。

(2) 信頼性判断基準の形成

コミュニティサイトにおける人との付き合い方のポイント・相手への信頼性判断基準は、本人のこれまでのコミュニティサイトの利用経験や、周囲の人間の経験談から形成され、本人はそれらを非常に高く評価する傾向にある。そのポイント・基準が、親やコミュニティサイトが設定するポイント・基準と相容れない場合に、自分のものを優先してしまうケースが散見された。

従って、自身の経験を生かし学んでいく青少年に対して周囲の基準を押しつけるよりは、青少年の「学び」をサポートする体制の構築が、適切な信頼性判断基準の形成に有効だと考えられる。